

## 第13回富山県広域消防防災センター運営委員会 主な意見

日時：令和6年11月20日（水）15:00～16:30

場所：富山県防災危機管理センター2階中会議室

<四季防災館のリニューアル基本計画（案）についての主な意見>

- ・映像や音響などを工夫して別世界に引き込まれるような没入感のあるコンテンツを制作して欲しい。
- ・「都市型水害体験コーナー」の水圧ドアは、富山県内にほとんどない地階のドアよりは、自動車のドアの方が本県の現実に対応して望ましい。
- ・展示施設では、説明やおもてなしといったソフト面も重要であり、マンパワーを使い、話題性があり注目を集められるような工夫も必要。
- ・インドアでの災害体験に連続して、アウトドアでの活動を組み合わせてみることも検討したら面白い。
- ・2階の「流水体験」と「風雨体験」については、劣化部分の設備更新だけでなく、少し何か変化や新しさが欲しい。
- ・充実したリニューアル内容で小学生は楽しんで体験できると思う。
- ・今後、小学生の防災学習の機会は増えてくると思われるが、四季防災館で小学生の質問や調べ学習に対応してもらえると学習効果の向上が期待できる。
- ・3階のスペースがあまり利用されず勿体ないと思っていたので、「災害に備えるコーナー」の新設により、新たな役割が生まれるのは大変好ましい。
- ・四季防災館は団体向けの施設というイメージが強いので、個人で気軽に立ち寄れるような個人向けのコース設定があると良い。
- ・「災害に備えるコーナー」は、1家族4人として必要な食料や水の備蓄量とか、浸水時に備えてどこに保管しておけばいいかといった説明があると良い。
- ・2階の「〇×クイズコーナー」で備蓄に関するクイズに答えた後、3階の「災害に備えるコーナー」で学習してもらおうとより学習効果が向上する。
- ・来館時の属性や時期によって、来館者の視点や知りたい情報は変わってくるので、定期的に情報が更新されていると良い。
- ・一度に全部見せようとするのではなく、例えばある時期は都市型水害について重点的に説明するとか、テーマごとにストーリー性のあるプログラムが必要。
- ・能登半島地震の際は、避難所がどこか分からなかったという話をよく聞いたので、「津波・液状化・避難所コーナー」でそういった情報が周知されると良い。

- ・家庭での備えには、子どもの役割はとても大切。家具の転倒防止も子どもが親に話すことで親が金具を取り付けることが多い。「子どもが変われば親が変わる。」
- ・団体や個人など多様な属性の来館者に対応したガイダンスや体験プログラムが準備されていると良い。

<富山県広域消防防災センターの運営状況等についての主な意見>

- ・消防大学校では、消防職員以外の市町村職員を対象に危機管理コースを設けている。元日の能登半島地震で多くの経験を積んだ石川県職員等を講師として富山県内の市町村職員に受講してもらうような機会を設けてはどうか。
  - ・四季防災館でSNSを運営しているのは大変良いが、フォロワー数がまだまだ少ないので、更新頻度を上げるとか、学生ボランティアにお願いして投稿内容を工夫してみるとか、フォロワー獲得のための取組みが必要。また、カターレ富山とのタイアップも面白いかもしれない。
  - ・令和7年度は四季防災館のリニューアルに係る工事が予定されているが、工事の区画を限定し、工事をしていない区画については、運営を続けるという手法もあるのではないか？
- 実際には工事を行う業者との協議で決める。工事をしながら部分的に運営を継続する手法もあるが、その手法を採用した場合であっても一定期間は、施設全体の運営を完全に停止することを見込んでいる。(県回答)